

生産性向上支援訓練カリキュラム

A. バックオフィス	システム開発会社(ベンダー)との関係を築くマネジメント力を学ぼう！
システム導入	ベンダーマネジメント力の向上

コースのねらい	情報システム開発の発注者(ユーザー企業)として知っておくべき事項を理解し、システム開発会社(ベンダー)との良好な関係を築くためのベンダーマネジメント手法を習得する。
---------	--

対象	(中堅・管理者層向け) ・システム開発に必要な発注者の役割を学びたい方 ・自社に最適なベンダーの選定方法を知りたい方 ・システム導入に向けてベンダーと接する方
----	--

講義内容	「基本項目」		「主な内容」	訓練時間(H)
	1	ベンダーマネジメントの概要	(1) ITシステムの「2025年の崖」とは 複雑化・老朽化・ブラックボックス化した既存システムが残存した場合に想定される国際競争への遅れや我が国の経済の停滞などを指す「2025年の崖」について、企業経営への影響を解説する。	0.5
			(2) ベンダーマネジメントとは システム開発を行うベンダーに対して、そのパフォーマンスを最大化するために働きかける施策である「ベンダーマネジメント」について解説する。開発過程をベンダーに任せるリスクを軽減し、正しいコミュニケーション方法を身に付ける。	0.5
			(3) VMOの編成 ベンダーマネジメントを実行する中核となるVMO(Vender Management Office)の編成について、以下のゴール設定ごとに解説する。 ・ITコスト削減を第一目的とする「調達最適志向」 ・ビジネスの新しい価値やサービスをITベンダーとともに創出していく「戦略連携志向」	0.5
	2	ベンダーの選定	(1) ベンダーの選定・評価方法 ベンダー選定における評価項目の例を解説する。 例:システムの機能、価格、ベンダーの信頼性、担当するSE体制の資質・能力、業務適合性、実現性、将来の拡張性、経済性	0.5
			(2) システム開発プロジェクトの成功例、失敗例の紹介 企業におけるシステム導入の実態を、業種ごとの特色を踏まえて紹介する。特に、成功事例のみではなく、システム開発がとん挫した例も紹介して、システム化により成果を出すための留意点を解説する。	0.5
	3	VMOが担う役割	(1) 契約管理 契約管理において、特にシステム開発に特有の留意点について解説する。 留意点例: 契約期限、締結タイミング、支払条件、役割分担、検収条件、保守内容	0.5
			(2) リスク管理 システム開発に関するリスクを3つの視点で分類し、これを最小化する方法を検討する。 システム開発リスクの3分類: 費用が超過する「経済的リスク」、思い通りのものが作れない「要件リスク」、技術的に実現不能な「技術的リスク」	0.5
			(3) モチベーション管理手法 システム開発ベンダーと良好な関係を築き、その能力を最大限発揮させてシステム品質の向上とシステム導入効果の最大化を狙う、ベンダー向けのモチベーション管理手法について学習する。	0.5
			(4) パフォーマンス管理手法 ベンダーの能力を最大限発揮させるために、モチベーション管理と合わせての実行を解説する。生産性を考慮して目標を設定するなど、プロジェクトの効果を十分に発揮する方法を検討する。	0.5
(5) QCDを改善するための検討 システムのQCD改善において、品質、コスト、納期の各要素単体での個別改善ではなく、QCD全体をバランスよく改善するための優先順位の設定やトレードオフの解消について解説する。			0.5	
演習	・自社でVMOを設置する際に適切な体制や人員を検討する(1-(3)) ・自社のVMOの役割及び行動計画について作成する(3-(5))		1.0	
合計時間			6.0	

カリキュラム作成のポイント
受講者がシステム化推進担当者としてVMOの立ち上げに携わり、ベンダー選定とマネジメント、システム化の成功と生産性向上に貢献できるようにすることを重視した。これを実現するために必要なシステム化の考え方、目的設定、ベンダーコントロールに必要な行動、QCDバランスの考え方についての知識を重視した。

備考